

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

2010年度 ラブ・ローフ募金による活動報告

- 募金件数: 456 件
- 募金総額: 3,575,662 円
- 対象期間: 2009年10月1日～2010年9月30日



皆さまからのラブ・ローフ募金により、アフリカで食糧不足に苦しむ人々のための活動などを行うことができました。感謝とともに報告書をお届けします。

ウガンダ

2006年まで18年間続いた政府軍と反政府武装勢力「神の抵抗軍(LRA)」との戦いにより、大勢の国内避難民が発生しました。国内避難民キャンプでは食糧不足が問題となり、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は食糧支援を行っていましたが、さらに2009年4月より続いた雨不足で、収穫量が例年より大変少なくなり、キャンプの内外で人々の食糧不足は深刻な状態となりました。

WVJは、国連世界食糧計画(WFP)との協同により、国内避難民キャンプで暮らす人々、干ばつで食糧不足に苦しむ人々の両方へ支援を行いました。国内避難民キャンプでは、ウガンダ北部のパデーのキャンプで生活する約3万4千人の人々に対し、食糧配布を実施しました。治安がようやく安定し、多くの国内避難民が故郷への帰還を開始したので、事業は終了しました。また、2010年4月頃には例年になく雨に恵まれ、作物が順調に育ったことも避難民の帰還をあと押ししました。



食糧配布の様子(ウガンダ)

レソト

雨や風などによる土地の流出や天候不順、HIV/エイズによる労働力減少などの影響で穀物生産が減少し、食糧不足が発生していました。

WVJは、HIV/エイズとともにある人々や結核感染者やその家族、栄養不良の子どもがいる家族など、特に支援が必要な家庭を優先して、家庭菜園、教育、

フード・フォー・アセット(FFA)※などを通じた支援を行いました。



食糧配布所にある相談窓口。登録カードを失くした等々様々な相談や苦情が寄せられ、スタッフが対応します(ウガンダ)

ケニア

干ばつや、経済危機による食糧価格の高騰、家畜の伝染病などにより、約410万人の人々が食糧危機におちいりました。

以前行った食糧支援に比べて、支援対象が57,300人から48,400人に減り、状況の改善が見られましたが、一方で治安があまり良ならず、警察のエスコートなくしてはスタッフの現地視察が困難な場所が存在しています。そんな中、食糧配布支援が実施され、FFA※など人々の自立に繋がる支援も行いました。



食糧支援を待つ女性たち（スワジランド）

スワジランド

2007年に発生した干ばつの影響が依然強く、食糧危機が続いています。翌年の食糧収穫量は若干増えたものの、栄養不足で体力を失い働けない人、高齢者、病弱な人、身寄りがいない人など社会的に立場の弱い人々を中心に、約30,000人以上の人々が支援を必要としていました。

干ばつなどの自然災害や HIV/エイズにより被害を受けた北部ロウフェルド、ミドルヴェルドなどで社会的に立場の弱い家庭に対し、生活向上や生活復興のために、フード・フォー・ワーク (FFW) ※などを通じて食糧支援を行いました。

ジンバブエ

灌漑施設の老朽化や、2009年の雨不足により作物の収穫量に深刻な被害を受けました。また長年にわたる経済の低迷により、人々は高騰した食糧を十分買うことができず、食糧確保が困難な状況でした。

WVJは、不安定な気候、経済の衰退、HIV/エイズの猛威などにより社会的に立場の弱い家庭を対象に、食糧が配布されました。また、FFA ※などによる支援も実施しました。

※ フード・フォー・アセット (FFA)、フード・フォー・ワーク (FFW)

人々はただ食糧配布を受けるのではなく、労働に参加することで、食糧を受け取る支援形態です。参加意識を育て、自立につながることを期待されます。FFWは、地域で必要とされる道路や灌漑設備などの建設・修復のための労働が中心で、FFAはむしろ個人に資産として残る活動が中心です。例えば、家庭菜園の設置、栽培のトレーニングの実施、新しい技術や知識を得るためのトレーニングなどです。これらにより食の安定に結びつく「資産」を提供しています。



食糧支援を受けた女性（ジンバブエ）

[担当、静谷スタッフより]

私は、干ばつで4年間にわたり深刻な食糧不足にあったウガンダのカラムジャ地方で行われている食糧支援を、2010年8月下旬に視察しました。そこで、WVJの食糧支援により確実に人々の食糧不足が改善されていることを確認しました。

さて、実際の食糧配布現場では、物事はなかなかスムーズに行かないこともあります。とくに支援が始まったばかりのころは、食糧不足に苦しむ人々が、スタッフの指示を聞かずに食糧の奪い合いを行い、予定した配布活動が困難だったと聞きました。しかし、支援が進むとそうしたトラブルも減り、人々はスタッフの指示にしたがってスムーズに食糧を受け取っています。それでも時々スタッフは人々一人一人に正しく対応するため、毅然とした態度で接することも少なくありません。そんなスタッフ達が頼もしく見えました。



WVJ 静谷スタッフと子どもたち（ウガンダ）